

その他(1)

令和8年度新潟県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

このことについて、別紙のとおり報告する。

令和8年5月19日
新潟県教育委員会教育長
太田 勇二

令和8年度新潟県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

令和8年5月19日
高等学校教育課

1 学力検査における出題の基本方針

- (1) 検査問題は中学校学習指導要領を基準とし、平均点 50 点程度を目安に作成した。
- (2) 問題作成に当たっては、基礎的・基本的な事項の定着を確認するとともに、思考力・判断力・表現力をより適切に評価することができるよう作成した。

2 一般選抜学力検査の平均点の概要（100 点満点換算、抽出調査）

(1) 5 教科の合計得点の平均点

年 度	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
平均点	51.4	49.3	50.5	55.5	55.2	49.9	48.1	47.6	53.4	49.5

(2) 全日制の課程の受検者の教科別平均点

教 科	令和8年度平均点	令和7年度との比較	
		令和7年度平均点	増 減
国 語	49.9	61.9	-12.0
社 会	58.3	60.2	-1.9
数 学	42.8	45.3	-2.5
理 科	46.4	49.8	-3.4
英 語	50.3	49.6	0.7
5教科	49.5	53.4	-3.9

3 結果の概要

(1) 全体について

- 全日制の課程の受検者の、5教科の合計得点(100 点満点換算)の平均点は 49.5 点で、令和7年度と比べて 3.9 点下がった。5教科の合計得点(100 点満点換算)の 10 点区分ごとの人数の割合は、令和7年度と比べて、250 点以下の割合が増加し、251 点以上の割合が減少した。
- 各教科の平均点は、英語で令和7年度を上回り、国語、社会、数学、理科は令和7年度を下回った。
- 基礎的・基本的な事項をみる問題の正答率は概ね高かったが、文章等を読み取り、考察を深めたり自分の考えを表現したりする問題において正答率が低かった。

(2) 各教科について

国語 基本的な問題における漢字の読みや歴史的仮名遣い、本文の内容を適切に説明したものを選択する問題の正答率は高かったが、応用的な問題における、本文から読み取った内容を定められた字数で説明する論述型の問題の正答率が低かった。

社会 基本的事項の知識に関する問題や、地図やグラフ、写真等の資料を読み取って判断する問題の正答率は高かったが、地域の産業やできごとの年代、民主政治の仕組み等について理解し、判断する問題の正答率が低かった。

数学 基本的な計算や、図形の基礎的な問題の正答率は高かったが、既習事項を具体的な場面や数学の異なる領域・分野において活用したり、応用したりして考察を深め、統合的・発展的に捉えたりする問題の正答率が低かった。

理科 基礎的・基本的な問題の正答率は高かったが、実験・観察の結果から考察する力を問う問題や、複数の知識を組み合わせて活用する力を問う問題の正答率が低かった。

英語 話される英語の情報を正確に聞き取る力を問う問題の正答率は高かったが、英文の内容を正しく捉え、その内容に関する情報や自分の考えをまとめて英語で表現する力を問う問題の正答率が低かった。

4 学校独自検査

新潟中央高等学校音楽科において実技検査を、定時制の課程 10 校において面接(集団または個人)を、それぞれ実施した。

5 欠員補充のための2次募集の概要

年度	募集人数		志願者数		志願倍率		合格者数	
	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制
R 6	993	178	189	15	0.19	0.08	183	15
R 7	902	178	171	21	0.18	0.11	167	21
R 8	1,186	253	147	13	0.12	0.05	146	12

6 学力検査等の結果の開示請求

(1) 学力検査の答案開示の請求は0件であった。(昨年も0件)

(2) 口頭による開示請求(情報提供)の対象者(県立高等学校の不合格者)の数は、一般選抜 31 校 908 人、海外帰国生徒等特別選抜 2 校 4 人の、延べ 33 校 912 人であった。このうち、開示請求があった数は 6 校 20 人であった。(昨年は 6 校 25 人)